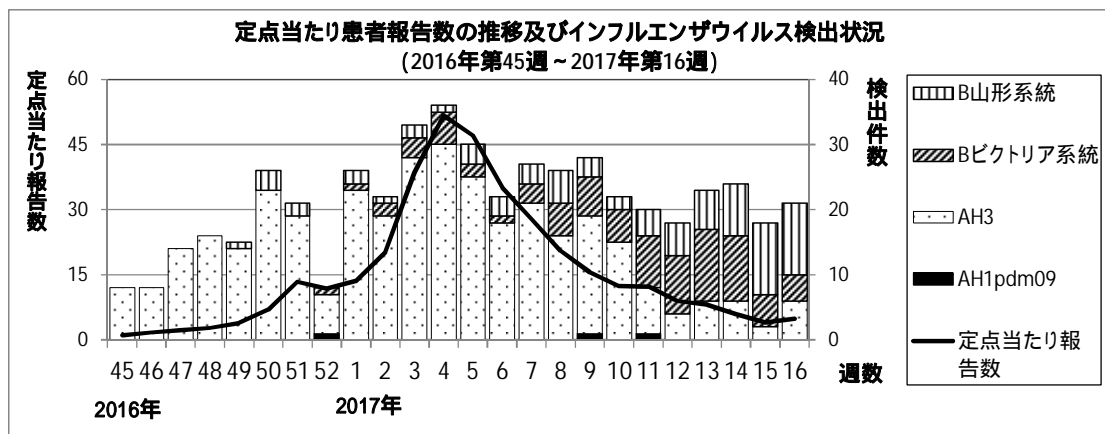


流行期のインフルエンザウイルス検出状況について

感染症発生動向調査に基づく埼玉県の 2016/17 シーズンのインフルエンザの状況は、2016 年第 45 週（11 月 7 日～13 日）に定点当たり患者報告数が 1 を超えて流行期に入り、2017 年第 4 週に 51.68 でピークに達しました。2016 年 11 月から 2017 年 4 月までに病原体定点医療機関で採取された 544 検体の検査結果（埼玉県衛生研究所実施）は、AH1pdm09 が 3 件、AH3 亜型が 356 件、B 型が 159 件（山形系統 76 件、ビクトリア系統 83 件）、A 型亜型未確定のウイルスが 2 件検出されました。今シーズンのインフルエンザの主たる流行ウイルスは、AH3 亜型であり、B 型は年明け以降、徐々に広がったことが確認されました。さらに春（第 12 週）以降は、B 型の検出が優位になりました。



2016/17 シーズンの全国の各型及び亜型のインフルエンザウイルス分離株について、抗インフルエンザ薬に対する耐性変異の有無を国立感染症研究所が調査したところ、AH1pdm09 の 141 株中 2 株（1.4%）にオセルタミビル及びペラミビル耐性が認められました。AH3 亜型 262 株、B 型 77 株には耐性は認められませんでした。また、2016 年 9 月から 2017 年 2 月までに県域で検出された AH1pdm09 3 株、AH3 亜型 47 株及び B 型 32 株について、遺伝子解析したところ、耐性変異は検出されませんでした。

なお、感染症発生動向調査においてインフルエンザの定点当たり報告数が第 20 週（5 月 15 日～21 日）に 0.76 となり 1.00 を下回りましたので、今後は検体提出機関当たりの採取数は各月 1 検体となります。病原体定点医療機関の先生方には、引き続き検体採取への協力をお願いします。

・インフルエンザに関する最新の全国情報は、国立感染症研究所感染症疫学センターのホームページ (<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html>) でご覧になれます。